

2024年度 大阪府訪問看護実践研修事業 教育ステーション事業

# 市西ブロック 実践報告

訪問看護ステーションアンジュ 畑中



# 目標

1. 多職種向けACP研修を成功させ、地域での定着を促進する
2. 地域住民に対しての訪問看護の周知
3. 研修や電話相談、コンサルテーションを通じて地域で働く訪問看護師が抱える不安や疑問に対応する
4. 訪問看護ステーションでの体験や研修を通じて、地域との連携強化と訪問看護への就業意欲を喚起する

# 研修事業 集合①

- ▶ 日時：9月28日(土) 15時～18時
- ▶ 『ACP支援実践人材育成研修』
- ▶ 場所：西区民センター
- ▶ 目標人数：51名
- ▶ 参加者：34名
- ▶ 気付き

今年度は多職種を対象にACP研修を実施。看護師以外はケアマネージャー、介護職、相談員、セラピスト、管理栄養士や薬剤師など多種にわたる職種の方に参加していただき、様々な視点での意見や考え方などを共有できた。ファシリテーターの方々が中心となって頂いたことで色々な意見が引き出せたのではないかと考える。

## 研修事業 集合②

- ▶ 日時：10月12日(土) 14時～17時
- ▶ 『ACP支援実践人材育成研修』
- ▶ 場所：福島区民センター
- ▶ 目標人数：51名
- ▶ 参加者：37名
- ▶ 気付き

1回目より更に多職種の参加となった。看護学生の参加もあり、臨床に出る前からACPの必要性を理解してもらえる事に、研修を行って良かったと実感した。

# 研修事業 オンライン①

- ▶ 日時：6月28日(金) 18時配信
- ▶ 『理学療法士の移動介助とポジショニングの必要性』
- ▶ 場所：YouTube配信
- ▶ 目標人数：51名
- ▶ 参加者：57名（アンケート回答数）
- ▶ 気付き

理学療法における移譲などの研修は多いが、ポジショニングについての研修は少なく、また実際 介護職系の方からよく必要性や方法を聞かれることが現場でも多いため今回はポジショニングに焦点を置いた研修を行った。アンケートでは、タオルを使う方法に対して勉強になったという声が多く、今後取り入れていきたいという声も多かった。

## 研修事業 オンライン②

- ▶ 日時：8月23日(金) 19時配信
- ▶ 『能登の災害支援を通じて』
- ▶ 場所：YouTube配信
- ▶ 目標人数：51名
- ▶ 参加者：54名（アンケート回答数）
- ▶ 気付き

能登地震後の現在の能登の現状を目の当たりにし、いつ自分たちの地域でも起こるか分からないといった危機感を改めて持つことができた研修であった。震災があった場合、何ができるのか、何をすべきなのかを深く考えさせられた研修であった。

## 研修事業 オンライン③

- ▶ 日時：12月13日(金) 19時配信
- ▶ 『能登の災害支援を通じて』
- ▶ 場所：YouTube配信
- ▶ 目標人数：51名
- ▶ 参加者：31名（アンケート回答数）
- ▶ 気付き

オンライン2での研修に繋げて、災害時の応急処置を再度振り返る研修として行った。また災害時のみではなく、地域医療や介護に携わる人達は日々、何があるか分からない・1人で初期対応を行わないといけない状況になりやすいため、そういった場面も含めての研修を行った。アンケートでは役に立ったという回答が多かったが、配信が年末となり視聴回数は77回であったがアンケートの回答率は低い結果となった。

# 研修事業 府民への相談支援

- ▶ 日時：5月24日(金) 10時～・13時～・15時～
- ▶ 『無料健康相談会』
- ▶ 場所：福島区 訪問看護ステーションアンジュ本社
- ▶ 参加者：1名
- ▶ 気付き

告知が遅れたことと、場所がステーション事務所であったため分かりずらく集客が望めなかった。市民まつりなど、人が集まる場所を検討した方が良かった。また宣伝期間がほとんどなかったので宣伝は時間を費やし行った方が良かったと思う。服薬方法での相談には、日々私たちが訪問して工夫している方法が提案できたことは良かったと思う。

# 体験研修 ①看護業務②管理業務

- ▶ 参加者数：①目標10名／実績17名 ②目標3名／実績0名
- ▶ 参加者職種：①病院看護師17名
- ▶ 気付き

管理業務の方は達成できなかったが、看護業務では目標数よりも大幅に多い実績となった。今回教育ステーション事業を行った事で、体験研修という訪問看護の実際を病院看護師に知ってもらう良いきっかけとなった。今回多数の受け入れを行った病院からは、今後も継続して毎年体験研修の受け入れをしてほしいと依頼された。今後も受け入れを継続し、この学びを看看連携と退院支援に活かして、双方が患者様のために、より良い看護を提供できる連携を取っていけることに繋がる成果となったと考える。

# 電話相談

➡ 目標10件／実績18件

➡ 相談内容

今回診療報酬改定に伴い、報酬関係がほぼ占めており、他は指示書やカルテの切り方などに対する内容であった。

➡ 相談元：訪問看護ステーション

➡ 気付き

診療報酬改定についての質問が多かったため、国保連や近畿厚生局への問い合わせも必要となり時間がかかりかかることが多かったが、こちらも勉強となる案件もあったので結果相談事業を行って勉強となった。算定において相談できる事業としての認識も持って頂けたと思うので、今後も相談できる事業所として体制は取っていき、新規開業した新しいステーションに対しては特にサポートをしていけるステーションとなり在宅看護の人材が増えることに繋げていければと考えている。

# コンサルテーション

➡ ①電話：目標15件／実績1件 ②対面：目標5件／0件

➡ 相談内容

精神疾患患者への対応方法の相談

➡ 気付き

精神患者様への対応方法は、精神特化のステーションの方からへのアドバイスが的確と考えこちらから依頼し回答をお願いした。回答文書には気づきが多く、今後の精神疾患患者への看護に活かしていきたいと思った。

# 市西ブロック 協力ST・協力ナース

- ▶ 福島区訪問看護ステーション
- ▶ あかり訪問看護ステーション
- ▶ 淀協えがお訪問看護ステーション
- ▶ 北斗会訪問看護ステーションエバーケアネックス大正  
(コンサルテーション)
  
- ▶ 長谷川健：あかり訪問看護ステーション・管理者／動画制作配信
- ▶ 可児敏弘：訪問看護ステーションアンジュ・正看護師／動画撮影
- ▶ 山口暁人：訪問看護ステーションアンジュ・理学療法士／動画製作
- ▶ 瀬戸口和正：訪問看護ステーションアンジュ・作業療法士／動画製作配信

# 目標に対する評価

1. 研修には幅広い職種の方に参加してもらえたので、ACP実践の必要性と人材育成等に貢献できたと考える。今後も引き続き啓発活動は継続する必要がある。
2. 府民相談の集客はうまくいかなかったが、年々独居や老老介護状態などの高齢者は増加しており、疾患だけでなく生活全面において訪問看護師は見守り支援していくという事を周知する必要がある。今後も府民に対しての訪問看護の周知は行なっていきたい。
3. 診療報酬の改定があったためステーションからの電話相談が多かった。研修は病院から多数の受け入れを行えたので、在宅の実際を知ってもらい、今後の病院と地域の連携強化に貢献できたと考える。
4. 訪問看護師の研修受入の依頼はなかったが、受け入れた病院看護師の中には訪問看護に興味があると言われていた方もいたので、在宅の実際を見てもらい、訪問看護への就業を考えてもらえるキッカケになったのではと思う。

## 教育ステーション事業全体の効果と次年度の課題

今回教育ステーション事業を初めて行ったが、事業所内で実際動ける人材が管理者のみであり、組織の代表も教育ステーション業務への理解が薄く、事業所内でも協力をほぼ得られないといった現状であった。今後、この事業を継続していくには、特に個人で起業しているステーションには、大阪府訪問看護ステーション協会から、管理者だけではなくステーションの母体の代表者にも説明を行って頂けると、今後企業系のステーションからも教育ステーション事業を前向きに考えてくれるところが手を挙げてくれるようになるのではないかと考える。

今後さらに在宅看護は地域において重要な役割を担っていく存在となり、その上で教育ステーション事業は訪問看護の周知と他職種連携においても『繋がる』という部分で大きな役割を果たすことができる事業である。しかし他職種の方からは、教育ステーション事業が「何のために何をしてくれるのか分からない」という認識を持たれている方が多いと今回行い強く感じた。

次年度の課題としては、訪問看護ステーション協会をはじめ教育ステーション事業の事を、まず大々的に周知宣伝を行えば、研修事業への参加や他職種にも認識してもらえる事が、次年度のみならず今後の教育ステーション事業の効果は大きくなるのではと考える。